

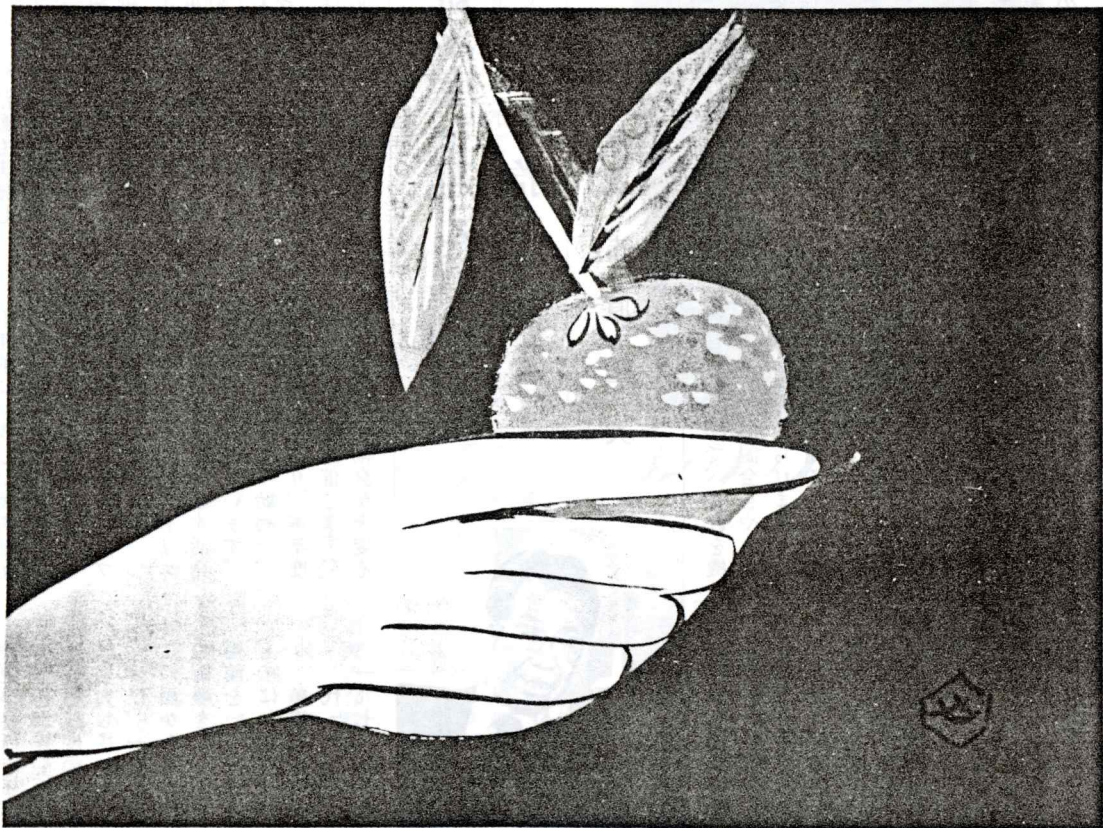
みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 6 NO. 1

昭和54年4月15日発行
編集・発行人 市原 正夫

〒260
千葉市中央港1丁目10番1号
☎ 0472-42-8311 (代表)



芹沢銈介「みかん手」板絵 1975年

観潮台

待望された「芹沢銈介展」その創造のすべて——の開幕が近づいた。新年度早々の特別展なので、潜行準備には時間をかけたが、表立ったご協力お願いが短期間で、ご迷惑やご心配をかけてしまった。私たちの予防意識は明白でも、公立美術館の予算制度からの制約で、査定が軌道に乗る十二月まではどうにもならなかったのが実状である。

常態といってしまうえばそれまでだが、幸いこの過程で今井正県教育長の積極策で、特別展予算の前年度中途での事前協議制の導入が決り、ゆとりと大きな飛躍が期待できるようになった。新設美術館として試行錯誤の連続とはいえず、経営上で自覚的に点検・反省に留意した結果へのご配慮と受け止め、私たちは文字どおり勇気百倍である。

とにかく、新年度それも四月からの特別展「芹沢銈介展——その創造のすべて——」準備では、いろいろな面で困難に直面しいろいろとお手数をかけてしまった。しかし、この段階で美術館経営の軌道修正ができそうでホッとした。

(高橋在久)

開館以来の延入館者が、前年度末で五十四万人に達するなど、このところ、県立美術館の存在が、すっかり皆様の中に定着されてきた感じがします。

本年度は、希望の県民アトリエの誕生により、全施設完成の記念すべき年にあたり、大きな期待とともに、その運営についての重い責任を感じているところです。

県民アトリエを人生の

生きがいの場に

県民アトリエの規模・機能等については、前号でお知らせした通りで、今のところ、わが国の国・公・私立美術館をみても、展示フロア以外に、このような各機能を充足する施設をまとまって、もった館としては、東京都美術館と本館ぐらいかと思っています。

然し、施設だけを誇るのではなく、その施設をいかに利用するかが、大切なことですので、これからの私どもの役割は一層大きくなります。

現在、運営と利用の計画を具体的に検討し、皆様の県民アトリエとして、期待に答えるよう努めています。

幸い、過去三か年間、現状の施設の中で、経過的に、か

たる・つくる“活動も実施してきましたので、その実績の上に、本格的な活動を展開したいと思っています。

その場合、運営の基本的な理念として、この県民アトリエを、単なる美術に関する技術の伝達・学習の場というより、これらの活動を通して、ひとりでも多くの人に、人生の生きがいを求められるところにしたいと願っています。

新年度を迎えて

抱負を語る

館長 市原正夫



五年前に結成した美術館友の会も、会員数が逐年増加し、昨年度末には千名を突破し、館と利用者との大きなパイプ役を努めています。

これからは、県民アトリエなどの関連で、ますます活発な活動が期待されています。また、一昨年より始めた、巡回展も軌道にのり、本年度は成田と銚子で開催しますが、今回は地元的美術会が大変そ

先日、本館の講習会に参加されている、千葉市幕張町に住む小室さんから、私あてに便りが届きました。その一部ですが、

「そのご御無沙汰致しています。私も美術館通いをし、画を楽しみ、この年になってからの人生は誠に張り合いがあるものです………」と。

美術館をより身近なものに

陸運事務所と千葉港湾事務所の御援助をいただき、平日二十往復程度の定期バスの実現に努力しています。

ぜひ、一日も早く開通し、この面からも利用者と美術館の距離をぐーんとちぢめ、美術館をいつでも皆様の身近なものにしたいです。

美術館を「地方の時代」の一翼に

一九七〇年代後半は、わが

の運営に積極的で、これを機会に講演会や解説会をやらうと意気込んでおられますが、これでこそ、本館の移動美術館だと思っております。

それから、美術館行定期バスの平日運行ですが、三年前に日曜・祝日に限り、国鉄千葉駅前より、一日十往復開通し、大変利便を与えてくれていますが、今、千葉中央バスと小湊バスの特別な御配慮で、

国の公立美術館・博物館の建設ブームとも言える時代で、各都道府県は競ってというほど、堂々たる館をつくり、美術館では世界の名作を買い求めるなど、まことに景気のよい話題が提供されました。

なお、このところ隣の埼玉・茨城でも新美術館建設の構想がすすめられており、全国的に県立美術館が出揃うのも、ほど近いことでしょう。

最近「地方の時代」ということが言われ始めましたが、このような動きをみるにつけて、この「地方の時代」の推進役の一翼を美術館・博物館が担っているのではないかと思います。

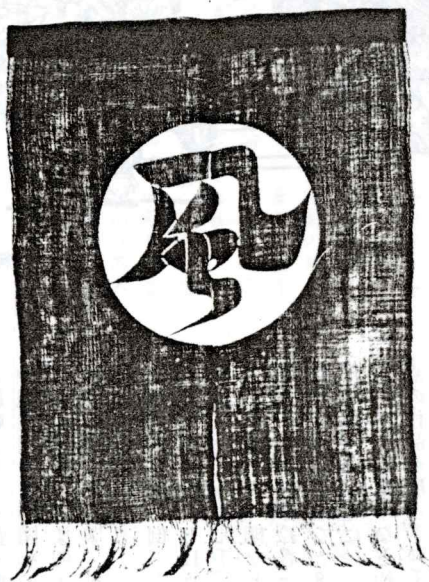
もともと、文化はそれぞれの地方の個々の風土の中から育ってきたものであって、これらの文化を背景として生れてきた美術館は、大都市に偏在している国立・私立の美術館とは、また別の意味で価値ある存在かと思っています。

その姿は、公立美術館の先輩である秋田・高岡・鹿児島・浜松・高松などの特色をもった市立美術館に見られるばかりでなく、今日、建設された県立美術館にも見ることができ

ます。本館も開館以来、房総にゆかりのある作家と作品の発掘と顕彰に努めながら、数多くの特色ある展覧会を開催する一方、各種講演会・講習会を企画し、これからの美術館のあり方を求めています。これらのことが、本県の芸術文化の振興とともに、「地方の時代」の一役も担うことができればと願っています。

特別展 「芹沢銈介展」

——その創造のすべて——



風の字のれん

展覧会鑑賞の手引

■型染の技法 型染めは模様を彫った型紙を使って、布の上に防染糊を置き、染液をつけた刷毛で引染めするか、染液の中に浸して染め、水洗いによって糊をおとし、模様を表わす染め方です。

型染めの技法・型絵染

四 本 貴 資

非常に細かい模様を彫った小紋や、中くらいの大きさの模様を彫った中型や、唐草はその代表的なもので、日本で幅広く行なわれた独特の染め方です。これには、型置きをして

型染めは沖繩の紅型がその代表的なものといえます。■型絵染 型紙を使って布地の上に防染糊をつけて染める型染には、唐草、長板中型、江戸小紋、琉球紅型な

一色に染めて模様を白・黒で出す一色染めと、型置きをした後、染液につけた小刷毛で多彩に色をさして染めるものと、更に色さした部分を糊で伏せて地色を染めるものがあり、多色の

どがあるが、これらは型彫り、型つけ、染などの工程が分業になり、各専門職によって行われている。これに対し、上記の伝統は型染を消化し、現代の視野をもつて、自ら下絵を描き、型

を彫り、染める諸工程に創作性を生かした、独自の芸術的領域をもった型染を型絵染といいます。芹沢銈介氏が昭和31年人間国宝に認定された時、はじめてこの言葉が使われました。

初めての関東での総合展

昭和51年、フランスのパリ国立グラン・パレで芹沢展が開催され、多くの市民に感動を与えたニュースはまだ耳新しい。この国際的にも評価を受けた作品の展覧会が、これまでも国内で何回か開催されているが、その多くは関西であり、関東の美術館での開催は今展が初めてのものである。

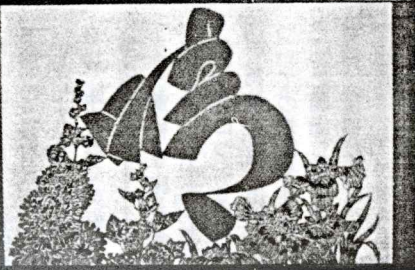
本館においても工芸分野の展覧会は数少なく、それだけに今展への期待は大きいといえよう。更に芹沢の仕事は染色のみならず、ガラス絵、板絵、陶器等幅広く工芸の分野に渡っており、その楽しさを十分味わっていただけるのではないかと思う。

活躍の全貌を

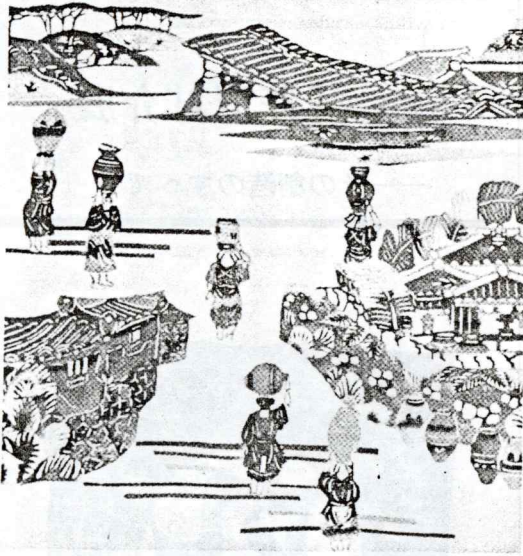
芹沢の仕事はどの分野をとっても鋭い感覚と豊かな独創性にあふれているが、中でも昭和31年型絵染で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されたことから知られるように、その仕事の大部分を型絵染で表現している。

その内容は身近な着物・帯・のれん・飾布・カーテン・屏

風・本の装幀等があり、大きなものには横浜市公会堂（下絵を展示）等の緞帳・知恩院



晴雨二曲屏風



沖縄風物

の莊嚴飾布（型紙の一部を展示）と多岐に渡っているが、その材料も、縮緬、紬、木綿、麻、絹、紙等多様。その時々に応じたデザインと材質が見事な調和美をかし出している。

このデザイン力、創造の豊かさは単に染色の分野にとどまらず、ガラス絵・板絵・陶器に、更には、大原美術館などの室内装飾にも発揮されており、最近ではステンドグラスを手がけるなど、その活躍は一段と広がっている。

主な展示作品

着物・着尺・小川紙渡村文地
白縮緬着物、筭文黄茶地麻部屋着、いろは文字文鏤朱地御召着物、沖繩笠団扇文黄地芭蕉布部屋着、木目文地白細着物、色入子菱摺箔地白細紹着物、型染筆彩細地着物など20点
帯・亀甲文藍地木綿帯、童子文藍地縮緬帯など10点
のれん・打てや双手を文、登り窯文、風の字、ねじりん棒のれん、女人俑など23点
飾布・カーテン・壁掛など
簞に牡丹文唐草文おやり地夜具地、柳文地白芭蕉布夏掛、杓子菜文藍地木綿壁掛、伊達



搬不倒（ガラス絵）

けら図細地壁掛、松文黄色返し木綿地カーテンなど15点
屏風・丸紋伊呂波八曲屏風、極楽から来た挿絵貼まぜ八曲屏風、和本散らし二曲屏風、紺屋ほめ二曲屏風など17点
染絵軸・リリーチ益子窯出し、沖繩絵図・僧の図など8点
染絵額・梵字愛染明王、伊作紙渡藍型、真の字、机辺静物、幾何文など15点
ガラス絵・搬不倒、古洋書、裸婦、宿の裏など12点
板絵・手、みかん手、壺天地、どんきほって、柳など16点
陶器・ゆず図赤絵香合、赤絵中皿、赤絵湯呑など8点
その他、作品室には、挿絵、肉筆本、限定本など約二〇〇点の作品が展示されている。
これに併せて、資料室では、

型紙、伸子張り、写真パネルによって、身近にありながら知る機会の少ない染色の工程を紹介し、芹沢芸術の世界を味わうとともに、染色に対する理解も深めていただくと考えている。更に、一五〇余点に及ぶ装幀本の中からその装幀の妙を、また実物を展示できない各インテリアの写真、これまで開催された各ポスター、芹沢に関する文献資料など、その活躍の全貌を紹介しようという計画している。

会期・入場料等

●会期
4月19日(木)～5月20日(日)
午前9時～午後4時30分

月曜日休館(但し、4月30日は開館、翌5月1日休館)

入場料

大 人三百円(二百円)
大・高生二百円(百円)
中・小生百円(五十円)
(内は二十名以上の団体料金)

なお県内学校に限り、学校団体料金もあります。

美術講演会

特別展に伴い美術講演会を次のとおり開催します。

演題 芹沢銈介の仕事
講師 金子量重(大妻女子大学講師・美術評論家)

日時 4月21日(土) 午後2時より 無料
会場 千葉県立美術館

美術を語る会

展覧会について、「語り合い」の中から、作家や作品についての知識や理解を深めるために開催します。

話題 染の技法について
話題提供者 四本貴資(東京造形大学教授)

日時 5月5日(土) 午後2時より 無料
会場 千葉県立美術館

常設 収蔵作品展

常設展は、本年度で四年目を迎え、収蔵作品の増加とともに定着化し、充実したものに近づいたとの好評を得ている。

言うまでもなく常設展は、本館における展示活動の基となるべきもので、また収蔵作品を数多く展観することのできる唯一の場でもある。

本館の収蔵方針として、地域美術館としての役割を踏まえての千葉県にかかわりのある作家の作品、近代美術館にふさわしい日本内外の近代及

び現代美術の代表的な作家の作品という二本柱があり、常設展もおのずから地域性と近代性の二面性を兼ねそなえたものになっている。

本年度は、昨年度の新収蔵作品をはじめ、今日まで余り展示する機会がなかったものなど、これまで収蔵してきた作品を広く公開する予定である。

▽会期

五月二十四日(木)から九月九日(日)まで

▽入場料 無料

てん刻入門講座を終えて

— 受講生の手紙から —

去る二月十七日・十八日の二日間、講師に古川悟（日展審査員）・白取弘苑（謹慎書道会評議員）の両氏を迎えて「てん刻入門講座」を実施した。

「てん刻」という一般の人たちにはなじみの薄いものがあり、当初は希望者も少ない

のではと懸念したが、予想を上回り、定員四十名のところ約一六〇名の参加申し込みがあった。

これは、てん刻講習の場を求めていた人たちが以外に多かったこと、また講師が著名な人であったことなどが原因



植木てる



上田美年子



関 宏夫

であろう。たとえば、受講生の一人は、次のように述べている。

書も絵もか、ないのに、篆刻に興味をもったのは、十七・八年前頃だったろうか。書道をはじめた友人が石をひとつ持ち帰って、自分の名をはっているのを見て、私も石を買ってもらったことを覚えている。本棚



川口一也

二日間の日程でしたが要点をよく把握されてのご指導、大変満足いたしております。（川口一也・千葉市）

の隅にあるその石をみるたびにいつかやろう、やろうと思いつつ、機会もなく過ぎてしまった。（藤崎輝子・千葉市）

がさがるだけです。（黒鳥 宏一・千葉市）

など、多くの札状をいただいた。二日間という短かい期間ではあったが、受講者一人一人の生活の中に、てん刻が入っていったようである。

幼児二人を抱えての毎日で次の作品にはとりかかってはおりませんが、頭の中ではあれこれと構想を練っており、母にまで注文を取る有様です。（唐笠美智子・船橋市）

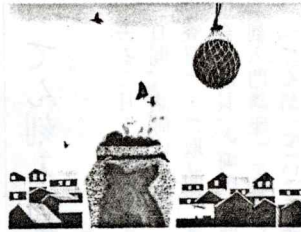
今回の企画について申し分ありません。しかし病めるもの（昨年の暮に、心臓病にかかって入院療養の身）として「つくる」初めての体験をしました。これは二重の喜びでした。病院に帰った今もつくった印をながめたり、新しい構想をねったりし乍らたのしんでいます。この体験から、肢体不自由者に対する「つくる」よろこびを与えてやることの必要性を強く感じました。（布施昌一・千葉市立病院 内）

新収蔵作品紹介

(54年1月～3月)

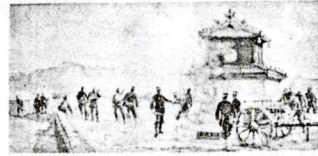
購入

久保木 彦作洋画「夢の詩」



夢の詩

藤田喬平作工芸「飾宮朱雀」
長谷川昂作彫刻「安息」「釈迦」
浅井忠作洋画「老母像」「鑑子窩第二軍司令部」「金州城壁上」



金州城壁上



メステイソの女達

高畑郁子作日本画「メステイソの女達」

戸田康一作日本画「風化」

富田文雄作版画「森75-20」

「接合77-25」

中島幹夫作彫刻「風の肖像」

美の泉

長谷川 昂

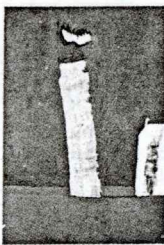


長谷川の作品には、仏像や子どもを主題とした作品が多い。このことは、彼が幼い頃より仏門と子どもの世界の中で育まれたことが大きく起因しているようだ。そしてこれらの作品は、油性分を多少含む樟を材料として、一本の鈍彫りという独特の技法で生み出したものがほとんどである。鈍を細かく入れた部分だけをみると、ただザラザラ

した隆起のみであるが、全体に眼を向けた時、そこには、真髄ともいえる美しい線を持った芸術品が浮かんでくる。これは即ち、長谷川の鈍から生まれ出る彫刻の世界でもある。長谷川は、「彫刻の本質は構造だが、構造をコントロールするのが線である。線は心の動きだからである。線は心の軌跡だからである。」という。

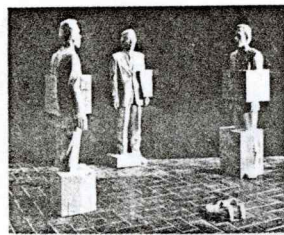
(文)

寄贈



ピサの斜塔

時田幸彦作洋画「ピサの斜塔」



存在する私

郡司和男作彫刻「詩人の肖像」
鈴木実作彫刻「存在する私」



うごめくトルソーII

木村賢太郎作彫刻「うごめくトルソーII」



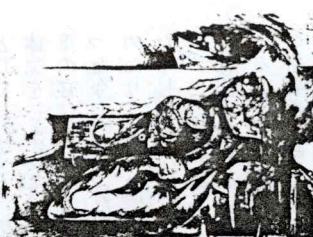
阿難

長谷川昂氏より
長谷川昂作彫刻「大迦葉」「阿那律」「富楼那」「迦旃延」「優婆塞」「羅睺羅」「舍利弗」「目犍連」「阿難」須菩提



詩人の肖像(石膏)

郡司玲子氏より
郡司和男作彫刻「詩人の肖像(石膏)」
「天使」「天使(石膏)」



夜明け

渡辺学氏より
渡辺学作日本画「夜明け」

次の資料が寄贈されました。
ここに厚くお礼申し上げます。

トピックス

●美術をより身近なものに

第六回美術を語る会



美術を語る会

三月三日(土)
「美術と私」をテーマに、根岸茂行氏(県立船橋高等

学校教諭・友の会実技基礎講座講師)を話題提供者に迎え開催された。自分の過去の体験(主に芸大時代)や、高校生の美術指導の立場から、造形的能力(色彩・構成・形態・リズム等)の伸長について、表現と鑑賞の関係にふれながら、芸術の表現とはなにか、良い作品とはどういう作品をいうのか、古典の作品が今日名作として残されているのはどんな点にあるのか等具体的に話された。参加した人々からは、子どもの創造性を伸ばすためには、見て不快を感じる作品は芸術作品と言えるかなど、日頃美術について感じていることなど活発な話し合いがなされた。

●浅井忠「筑波日記」の復刻作業進む

浅井忠像建立委員会では、昨年十一月に高さ二・四メートルにもおよぶ像を建立したが、さらにその関連事業として「筑波日記」(本館蔵)の復刻を計画している。

この日記は、浅井忠が明治十年の夏に窪田洋平とともに佐倉を経て銚子から筑波へ徒歩旅行した時のもので、当時の風景・風俗を知る上でも貴重な資料である。また巻末には漫画四図が日本画風に描かれている。

今回の復刻では、影写本と共に読み下し文も付けられ利用の便が計られている。

●友の会講演会

演題 書の見方と習い方

講師 浅見喜舟(千葉県美術

会長・本館協議会委員)

日時 4月28日(土) 午後2時

より 無料

会場 千葉県立美術館

伝言板

○美術館友の会では、本年度の会員を募集しています。ふるってご入会ください。詳細については、美術館内友の会事務局まで問い合せてください。

談話コーナー

堀江正章さん御一家の思い出

匿名希望 (柏市)

私の小さな時(五・六才頃)でしたので、記憶が断片的で、あまりお役にはたたないと存じますことをお断りしておきます。

○私の父が大正初期田制千葉中学校に奉職していた当時、堀江さんも同校に居られました。

○当時住いは千葉郡千葉町亀岡だったか亀井で都川の河岸で、お隣り同志でした。

○奥様と堀江さんのお母さんだったと思う方と、当時の私より小さかった記憶のお坊ちゃんがお一人居られました。

○一番印象深いことは、そのお母さんが胃癌(私の母から聞いた)で全く痩せてしまわれ、最後には食事を全く受け付け

られなくなられて亡くなられたのを覚えております。(当時の医療状態を思うと今昔の感無量です)

○奥様はとても美味しい「お萩」を作られるのが得意で、私の母は「ちらしずし」、春秋の彼岸などには互いに交換して楽しく

いただきました。
○奥様は非常に優しい方で恒根などない当時、庭で遊んでいると必ず何かしらお菓子を下さいました。

○堀江さんは、今ではあまり世渡りの方は上手ではなかったよう(芸術家はある意味ではそれでよい)で、子供ながら私もあまり近寄らなかつたような気がいたします。

○お庭に太い柿の木があり、秋には鈴なりに実つたのが臉に浮かびます。

○非常に残念なことが……堀江さん制作の肖像画が灰になってしまったこと。その画というのは、父の妹を画いてくださったもので、私の若い頃父がとて

ても自慢もし大事にしていました。

各種講座あんない

■第一回デッサン入門講座

本年度の実技講座は、「デッサン入門講座」(一回)「てん刻入門講座」(二回)「七宝焼講習会」(一回)を予定しています。最初に行う「デッサン入門講座」は、初心者を対象として、形や明暗のとらえ方、質感や量感の把握など石膏像(首像)をモデルにして絵画表現の基礎的な学習を目的としています。ふるって御参加ください。

期日 6月9日(土)10日(日)
時間 午前10時~午後4時
会場 千葉県立美術館研究

友の会「美術鑑賞の旅」に参加を

友の会では、今年も美術鑑賞バスの旅を計画しています。今回は、新緑の県北を中心に美術・民俗を訪ねます。

(期日)五月十三日(日)
八時十五分出発で十七時解散の予定。晴雨にかかわらず実施。
(見学地)流山市郷土資

工作室
会費 無料(但し、材料費自己負担)

講師 未定
定員 四十名
申し込み

講座名・住所・氏名
年齢・電話番号を明記して往復はがきで申し込んでください。
なお、切は5月26日(当日消印有効)ですが、希望者が定員を越えた場合は抽選で決定いたします。詳細については、学芸課普及広報班におたずねください。

料館↓柴又帝釈天及びその周辺↓東京都美術館

(募集人員)一〇〇名
(参加費)一五〇〇円

バス代、見学科、弁当代を含む。

参加希望の方は、四月二十日までに、美術館内友の会事務局まで往復はがきにてお申し込みください。なお、定員になり次第締め切ります。

団体展

(4月~6月)

▽第6回全日本書の友の会一般部・学生部書道展	4・10~4・15	無料
▽第2回千葉新芸術展	4・17~4・22	無料
▽千葉工芸展	4・24~5・6	無料
▽千葉新協展	5・2~5・6	無料
▽第5回歩会彫刻展	5・2~5・13	無料
▽等迦会千葉支部展	5・8~5・13	無料
▽第24回二科千葉支部展	5・15~5・20	無料
▽千葉市アマチュア美術クラブ展	5・15~5・20	無料
▽墨の県展	5・22~5・27	無料
▽表美展	5・29~6・3	無料
▽一陽会千葉支部展	6・5~6・10	無料
▽千葉県書道協会展	6・5~6・10	無料
▽千葉県写真家協会展	6・12~6・17	無料
▽第7回書壇秀抜展	6・19~7・1	無料

来館者

日記抄

2月	1	今井県教育長 青森郷土館 大分県土木建築課 石川県土木部営繕課 中村傳三郎審査会委員	2月	8	「第2回千葉県秀作美術展」オープン 県博物館協会編集委員会 県民アトリエ準備委員会	
20	21	京都市美術館 大分県芸術会館 香川県企画部土地対策課	16	定期バス運行について打ち合わせ	17・18	てん刻入門講座（講師・古川悟氏、白取弘苑氏）
27	28	金子協議会委員 埼玉県教育委員会 習志野市教育委員会 社会教育課他十名	21	定期バス運行について打ち合わせ	27	県展三十年史編集委員会
3月	6	金子協議会委員及び 四本造形大学教授 兵庫県教育委員会文化財課三名 松井千葉市長	27	芹沢銈介展打ち合わせ	3月	美術を語る会（話題提供者根岸茂行氏） 芹沢銈介展打ち合わせ
11	13	奈良県文化会館二名 宮城県生活環境部美術館準備委員会二名 船橋市教育委員会社会教育課	3	美術を語る会（話題提供者根岸茂行氏） 芹沢銈介展打ち合わせ	6	第三回千葉県美術館資料審査委員会 定期バス運行について打ち合わせ
20	23	財団法人日展成田事務局次長他二名 水戸市教育委員会社会教育課	14	定期バス運行について打ち合わせ	26	県民アトリエ工事請負業者打ち合わせ
29						